

令和5年度

事業実績報告書

事業所名	インターグループホーム			職名	人数	備考
施設長・管理者名	(施設長) 児玉 和也 (管理者) 蓑山 幸恵			施設長	1名	兼務
実施事業	指定地域密着型(介護予防) 認知症対応型共同生活介護			管理者兼介護支援専門員	1名	
開設年月日	平成17年12月1日			生活相談員	名	
所在地	鳥取県倉吉市福守町407-12			看護師	名	
正規職員(総合職)数	1名			介護員	11名	
正規職員(一般職)数	3名			調理員	名	
準職員数	4名			夜間専門員	2名	
契約職員数	7名			介護補助員	1名	
定員	18名	実績利用者数 17.5名/日	充足率 97%		名	
				計	15名 (兼務除く)	
項目	事業計画			事業実績		
1 基本方針	認知症になっても、地域の中で当たり前の暮らしができるように、ご利用者の個性を尊重し、家庭的な生活環境のもとで一人ひとりの力を引き出せるよう支援します。ご利用者の心身の状態を把握し、医療機関と連携を図り適切な対応に努めます。地域の一員として、地域活動を通じ馴染みの関係を大切にしていきます。					
2 運営	<p>①今までの生活を把握し、その人らしい生活ができるよう支援します。</p> <p>②アセスメントを行い、一人ひとりの持っている力を引き出せるよう支援します。</p> <p>③個人を尊重し、側面からご利用者を支え、想いを大切にすることで安心感が得られるよう支援します。</p> <p>④ご利用者の心身の状態を把握し、安心して適切な医療が受けられるよう支援します。</p> <p>⑤地域とのかかわりを大切に、地域の一員としてさまざまに人々との交流が図れるよう努めます。</p> <p>⑥提供するサービスの質の評価を行い、改善を図るよう努めます。</p> <p>⑦生活支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ご利用者の自立支援を目的とし、意欲的に取り組める支援を目指します。ご利用者が持ち合わせておられる可能性も踏まえ、支援内容に反映します。 ・日々の生活を送る中で無理のない生活リハビリを実施し、身体機能の維持を目指します。 ・ご利用者のニーズに合わせた外出支援を行い、事業所内だけの活動ではなく、地域との繋がりを絶やさず心豊かな生活の実現を目指します。 					
3 主な実施事業	(1)施設整備計画 なし			(1)施設整備実績 介護見守りロボット設置 他 774千円		
(1)施設整備事業						
(2)事業活動	<p>(2)事業活動</p> <p>①インター畑では、穀物や果物などの作物を自然豊かな環境の中で育てる喜び、採れた食材を使い食す楽しみを提供していきます。</p> <p>② 植栽したバラを造形・藤棚の設置を行い、ご利用者様の憩いの場、地域景観の潤いを実現します。</p> <p>③ 年1回地域交流カフェを開催し、地域の関係機関や住民の皆様をご招待し、地域に根付き開かれた施設にします。</p> <p>④ 近隣施設と合同で、ご利用者様と子どもたちのふれあいや認知症理解の推進を目的とした『なかよしカフェ』を開催し、認知症の理解を深めることで認知症であっても地域で変わらない生活の実現を目指します。</p>			<p>(2)事業活動</p> <p>①畑で収穫した野菜を日々の食事で提供し、食す楽しみに繋がった。 栽培野菜:トマト・エンドウ豆・キュウリ・ピーマン・ニラ・キャベツ・ハクサイ・ナス</p> <p>②バラの育成を継続し、手入れを行った。枯れたものもあったため、新しく植栽を実施した。 3月に藤棚の設置を行った。</p> <p>③地域交流カフェを開催し、民生児童委員、地域包括支援センターの職員や地域住民、地域の子どもたちへ向けて、認知症の紙芝居やグループホームの特色について知ってもらう機会となった。</p> <p>④近隣施設の子どもたちとなかよしカフェを実施。七夕の飾りつけを行い交流を図った。</p>		

	<p>⑤「コスモスプロジェクト」の取り組みとして、地域住民、近隣の小学校へコスモスの種の配布等を行い、花植えを通して地域とのつながりを持ち、地域の一員としての理解に努めます。</p> <p>⑥私たちはご利用者の今まで続けてこられたこと、大好きな趣味、叶えたかった夢を応援します。年間を通し、お一人ずつ、または皆様に夢を実現し、笑顔で過ごせる日を少しでも多く支援します。</p> <p>⑦新型コロナウイルス感染症予防対策として直接のご面会を制限する場合には、タブレット端末を活用したオンラインでのご面会を提供し、ご利用者様がご家族様や知人と会う楽しみを維持します。</p>	<p>⑤地域住民へコスモスの種を配布。施設周辺にコスモスの種まきを実施した。</p> <p>⑥ご利用者の想いを担当者がアセスメントし、外出支援や嗜好品の購入を行い夢の実現に向け、活動を実施。自宅への外出支援を頻回に行った。自宅への帰宅を支援し、住み慣れた場所との繋がりが途絶えないよう配慮した。</p> <p>⑦タブレット端末を使用し、オンラインでの面会を実施。毎月オンライン面会を実施し、ご家族様との時間を確保した。ご家族様、関係者に対し、広報誌や通知等でオンライン面会について周知を図った。</p>
<p>4 安全管理・衛生管理</p>	<p>(1)マスクの着用、手指消毒の徹底、施設内の定期的な消毒・換気の実施、ご利用者様・職員の健康管理等の予防策を日々実践し、感染症の予防、拡大防止に努めます。</p> <p>(2)新型コロナウイルス感染症については、手洗い、マスクの着用、手指のアルコール消毒を徹底し、三密を防ぎ、感染拡大防止に十分配慮します。危機管理意識を持って行動し、感染拡大を抑えるのは個人の行動にあると認識し「感染しない」「感染させない」を意識し、ご利用者様の安心安全を確保します。</p> <p>(3)「気づき」の観察力を高めるため、ヒヤリ・ハットを実践し、発生原因の把握と危険予知を行い、事故への予防策を講じていきます。</p> <p>(4)設備・備品等の安全管理を行い、物品等の整理整頓及び福祉用具のメンテナンスを徹底するとともに環境整備に努めます。</p> <p>(5)車両について使用前の日常点検などの安全管理を徹底するほか、運転の状況などを把握するため、運転日誌等の記録を行います。</p> <p>(6)職員に対し、道路交通法等関係法令を遵守し交通安全に努めるように、研修などを通じて安全教育を実施します。運転前後にアルコールチェックを実施し、酒気帯び運転を防止します。</p>	<p>(1)職員、ご利用者様のマスク着用と手指消毒の徹底を実施。時間を決めてこまめに換気を実施した。体調観察を徹底し、主治医へ早期に相談、受診を実施した。</p> <p>(2)職員、ご利用者様の健康状態の把握し、消毒、マスクの着用、パーティション等の飛散防止策を継続し、感染症予防に努めた。体調不良者があった場合は、早めに医療機関と連携をもち、ご利用者様の安心、安全に十分配慮を行った。</p> <p>(3)各フロア担当者が職員会議での件数、内容の報告を行い、各フロア会議にて分析、改善方法の見直しを実施し、事故防止に努めた。</p> <p>(4)毎月の自主点検の実施。月1回の整理整頓、環境整備を実施。環境整備・洗車とも担当者が中心となり、ご利用者様と一緒に毎月実施した。</p> <p>(5)車両の日常点検を行い、車両やタイヤの修理を実施した。使用時の運転日誌を確実に記載し、運転状況を把握した。</p> <p>(6)安全運転のポスターを掲示し 見える化を行うことで安全意識を高めた。運転前後に検知器を使用したアルコールチェックを実施し、酒気帯び運転防止に努めた。</p>
<p>5 防火・防災・救助活動</p>	<p>防災計画及び災害対応マニュアルにより、防災及び災害時の人命の安全、被害の軽減を図ります。</p> <p>(1)防火管理者を中心に、入居ご利用者の実態に即した防災訓練(年2回)を実施し、防災活動への参加、地域防災情報の把握に努めます。</p> <p>(2)有事に迅速な対応ができる環境整備を進めるとともに、スプリンクラー等の点検、防災設備の点検を行い、ご利用者様の安全の確保を行います。</p> <p>(3)近隣自治公民館との連携による緊急時避難体制を確立します。</p> <p>(4)地震、風水被害等の自然災害及び火災に備え、食料品・日用品・防災品・衛生品等の必要品を備蓄します。</p>	<p>(1)夜間帯想定、火災、水害、地震などの避難訓練を防火管理者を中心として実施した。消防署立ち合いのもと、避難・消火・通報訓練を実施した。</p> <p>(2)施設内の設備の点検、非常灯等の部品交換を行った。</p> <p>(3)運営推進会議報告を通し、避難訓練の報告を自治公民館、地域住民に対し実施した。</p> <p>(4)備蓄品、防災品の確認を行い、必要なものは追加購入し、有事に備えた。備蓄品のリストを整備した。</p>
<p>6 職員の資質の向上と研修</p>	<p>施設内外の各種研修を通じて職員の資質の向上を図ると共に、専門知識及び技術の向上を目指します。</p> <p>(1)外部研修への参加 認知症実践者研修、介護専門職研修、鳥取県社会福祉協議会、地域包括支援センター等が主催する集合研修、またはオンライン研修への参加を通じ、知識や技術の習得に努めます。</p> <p>(2)法人内部研修への参加 法人内の研修、web研修へ研修内容に応じた職員の参加を促し、必要な知識、各種の介護技術の習得を図ります。</p>	<p>(1)オンライン研修に積極的に参加を行い、知識、技能の習得に努め、研修後には会議にて報告、勉強会を実施した。多くの職員が研修に参加できるように計画をたて、参加の促しを行った。</p> <p>(2)法人のweb研修に各職員が交代で参加し、技術の習得、向上に努めた。</p>

<p>6 職員の資質の向上と研修</p>	<p>(3)OJT・職場研修の実施 ① 年間計画に沿った施設内勉強会の実施や、外部研修で学んだことの伝達研修を行います。また、実践を用いた生きる研修を実施し、個々のスキルアップを目指します。 ② 実務経験の少ない職員については、知識や技能、経験の高い職員により実務を通じたOJTを行い、人材育成に努めます。 ③ ストレスマネジメント研修などを実施し、職員のメンタルヘルスケアに努めます。 (4)職員の資格取得のための取り組み 法人が定めた「国家資格等取得者に対する助成要領」による資格取得に対する助成制度を活用し、キャリアアップ・知識及び実技の習得について既得職員等に介護福祉士、介護支援専門員などの資格取得を促します。 (5)職員間の日常的な連携、報・連・相の徹底 業務引継ぎ事項様式を活用することで伝える内容、目的を明確化し、職員間の情報共有を円滑にします。 共有したい事項は文章にし、見える化していくことを徹底します。 月ごとの各会議、毎日の申し送りでの伝達を徹底し、全職員での連携を図ります。 報連相が行いやすい職場環境を作るため、各リーダー、管理者と話し合いの場を設けます。</p>	<p>(3)施設内では毎月担当者を決め、認知症・リスクマネジメント・感染症予防対策・身体拘束・虐待防止等の研修を開催し、個々の理解、スキルアップに努めた。 新任職員に対し、リーダーを中心とし、マニュアルを用いた研修を実施し、人材育成に励んだ。 (4)介護福祉士取得を目指す職員の勤務調整や業務量の軽減を図り、資格取得のサポートを実施し、有資格者が1名増えた。 主任介護支援専門員が介護支援専門員へ計画書作成等の指導を実施した。 (5)業務引継ぎは文書で見える化し、周知、確認を行い情報共有を実施した。 日頃より相談しやすい環境を作るため、声掛けを実施し、相談事を把握しやすいよう配慮をした。 管理者はリーダーに対し、話し合いの場を設け、相談等が行いやすい環境に配慮した。</p>
<p>7 SDGsの取り組み</p>	<p>○目標2 飢餓をなくそう ・食物を大切にするため、ご利用者様の嗜好に配慮した個別食の提供を実施し、フードロスを削減していきます。 ・持続可能な農業の取り組みとして、施設の畑で安全な作物を育て、ご利用者様や地域の方、子どもたちと食べる楽しみを育みます。 ○目標3 すべての人に健康と福祉を ・命が等しく守られる地域を目指して、認知症の理解の推進を図るため、近隣・地域住民を招いた地域交流カフェを開催し、近隣住民の健康を見守ります。 ○目標14 海の豊かさを守ろう ・一人ひとりがゴミを増やさない努力をします。 プラスチック製品の使用量を減らすために、エコバックやマイボトルを使用します。 ・ご利用者の排泄パターンやコントロールの方法を把握し、リハビリパンツ等の使用量を減らし、ゴミを削減していきます。</p>	<p>・個々に合わせた食事量の把握、提供を実施し、フードロスを削減した。 嗜好に合わせた行事食や個別食の提供を実施し、残食の削減を行った。 ・インター畑に使用する肥料は、天然由来のものを使用することを継続し、安全な野菜作りに努めた。野菜はご利用者様の食事作りに使用され、食す楽しみに繋がった。 ・近隣施設の子どもたち、民生児童委員、地域包括支援センターの職員を招待し、地域交流にっこりカフェを開催。認知症について手作りの紙芝居やクイズで認知症の理解を推進した。 ・買い物時にマイかごを使用、職員はマイボトル、マイ箸等の使用を継続した。 ・排泄表に記入を行い、排泄パターンの把握を行い、不要なパット類の削減を継続。</p>
<p>8 職員の健康維持・増進</p>	<p>・職員の健康診断を実施し、健康状態と課題の把握を行います。 指導、改善する事項がある場合は医師と連携を持ち、健康増進に取り組みます。(年2回) ・年1回はメンタルヘルスケアの啓発のためストレスマネジメント研修等を実施し、職員の心の健康を守ります。(年1回以上) ・職員が高年齢となっても健康で働き続けるための取り組みとして、月1回の体力テスト(月1回)の実施、毎日のストレッチ体操等を実施します。</p>	<p>・年2回の健康診断を実施し、改善事項のあった職員に対し、担当者が声掛けを行った。医師と連携をもち、健康管理に努めた。 市の健康診断への声掛けも実施した。 ・法人内、事業所内でストレスマネジメント研修を実施した。 職員同士、ストレス発散についての話し合い等を行った。 ・定期的に体力テストを実施。握力、柔軟、瞬発力等の測定を行った。 館内放送で呼びかけ、勤務職員でラジオ体操を実施した。</p>
<p>9 各種団体との連携と地域交流</p>	<p>・ご利用者様とご家族様や保育園、地域・団体等との交流の場を設ける等しながら、社会の一員として積極的に社会交流が図れるよう努めます。 ・グループホームが立地する地域へ積極的に出向き、地域住民の方の理解と協力体制の確立を目指していきます。 ・学生、傾聴、介護ボランティア等の受け入れを行い、グループホームやご利用者様への理解に繋がるよう努めます。</p>	<p>・ご家族様とはオンライン面会や玄関先での交流を実施。保育園の子どもたちとは適度な距離を保ちながら庭先での交流を実施した。 ・地域への外出を感染症予防しながら実施した。 ・感染症予防対策として、介護相談員、傾聴ボランティア等の受け入れを中止。 市内中学校の福祉体験授業の受け入れを実施。 相互研修を実施し、他法人等から研修受け入れを行った。</p>

季節・年間行事

施設名： インターグループホーム

実施月	行事計画	行事实績
令和5年 4月	誕生会、花見外出、花祭り、傾聴ボランティア、なかよしカフェ	4月21日、22日 誕生会、4月10日 花まつり、4月18日 春まつり、 傾聴ボランティア コロナ禍のため受入れ中止、なかよしカフェ コロナ禍のため開催なし
5月	誕生会、傾聴ボランティア、家族交流会	5月21日 誕生会、家族交流会 コロナ禍のため開催中止、 傾聴ボランティア コロナ禍のため受入れ中止
6月	誕生会、粽作り、傾聴ボランティア	6月17日 粽作り、6月28日誕生会、傾聴ボランティア コロナ禍のため受入れ中止
7月	誕生会、七夕まつり、介護相談員、傾聴ボランティア	7月1日 なかよしカフェ、7月7日七夕まつり、 介護相談員・傾聴ボランティア コロナ禍のため受入れ中止
8月	誕生会、福祉の里夏祭り、傾聴ボランティア、なかよしカフェ	8月31日 誕生会、傾聴ボランティア コロナ禍のため受入れ中止
9月	誕生会、敬老会、合同夕涼み会、傾聴ボランティア	9月9日 福祉の里まつり、9月27日 敬老会、コロナ禍のため、合同夕涼み会は中止、 傾聴ボランティア コロナ禍のため受入れ中止
10月	誕生会、ミニ運動会、傾聴ボランティア	10月16日 ミニ運動会、10月22日文化祭りこしパレード、 傾聴ボランティア コロナ禍のため受入れ中止
11月	誕生会、福祉の里文化祭、傾聴ボランティア、紅葉狩り	11月8日、15日、19日 紅葉外出、11月2日 誕生会、傾聴ボランティア コロナ禍のため受入れ中止
12月	誕生会、クリスマス兼家族交流会、傾聴ボランティア、餅つき、なかよしカフェ	12月11日、17日誕生会、12月27日 クリスマス会(家族会の開催はなし)、12月28日 餅つき、 なかよしカフェ コロナ禍のため開催中止
令和6年 1月	誕生会、初詣、新年初釜、どんど、傾聴ボランティア	1月2日、3日 初詣、1月15日 とんど、1月10日 誕生会、 傾聴ボランティア コロナ禍のため受入れ中止
2月	誕生会、節分(豆まき)、傾聴ボランティア	2月3日 節分、2月17日 初釜、2月24日 誕生会、傾聴ボランティア コロナ禍のため受入れ中止
3月	誕生会、ひなまつり、傾聴ボランティア、地域交流カフェ	3月3日 ひなまつり、3月12日、31日 誕生会、傾聴ボランティア コロナ禍のため受入れ中止、 3月27日地域交流カフェ